

横浜市内産 「甘酢漬らっきょう」新発売

JAと組合員が連携して育てたラッキョウを使用

JA横浜は、横浜市内産のラッキョウを100%使用した「甘酢漬やるJA（じゃ）ん横浜！ふぞろいらっきょう」を2023年11月3日（金）から直営の「ハマツ子」直売所12店舗で販売を始めました。

原料のラッキョウは、JA横浜の農業経営事業と市内農家（正組合員）2戸が生産したものです。農業経営事業での栽培にはJA職員のほか、准組合員を対象にした「援農ボランティア」が携わっています。同商品は、JA横浜と正・准組合員の連携から生まれた一品です。

甘すぎず、さっぱりとした味付けで、ラッキョウのシャキシャキとした食感が特徴。JA横浜がSDGsをテーマに開発したオリジナル商品「やるJAん横浜カレー」シリーズとの相性も抜群です。薬味としてだけでなく、お酒のつまみとしても楽しめます。

◆商品情報◆

- 商品名：甘酢漬やるJAん横浜！ふぞろいらっきょう
- 内容量：120g（約15～20粒）
- 価格：390円（税込）
- 販売店舗：JA横浜「ハマツ子」直売所12店舗（本郷店／みなみ店／瀬谷店／都筑中川店／たまプラーザ店／中里店／南万騎が原店／四季菜館／メルカートきた店／メルカートいそご店／メルカートつおか店／メルカートかながわ店）
- 発売日：2023年11月3日（金）



商品パッケージ



カレーのお供にぴったり

裏面あり

●「農業経営事業」とは

農協法改正で一般法人が農業経営を行えるようになり、ＪＡ横浜は 2020 年に神奈川県承認を得て「農業経営事業」を始めました。農地を借り受け、ＪＡ組合員の農業経営と競合しないよう、作物や時期を考慮してＪＡ職員が栽培にあたります。

同事業は、「農業経営モデルの構築と担い手への継承」を事業方針として、高収益や省力化が見込める作物等の栽培モデルをＪＡが実証し、将来的には新たな担い手に継承することを目指す取り組みです。



●ラッキョウの栽培について

ラッキョウは、9月に植え付け、翌年6月に収穫を迎えます。可食部の大きさがそろっていても、漬物やタルタルソースなど収穫物のサイズに合わせた加工ができるため無駄がないのが特徴です。

ＪＡによる栽培は、今年で5年目。日頃の管理は営農部の職員が担当しますが、定植や収穫などの人手の必要な作業は若手職員を対象にした農業実習の一環とすることに加え、援農ボランティアの参加を募って行っています。



商品化の取り組み趣旨に賛同した農家2戸に対しては、栽培管理の資料を用意したほか、生育状況に合わせて追肥などのタイミングを知らせ、作業支援をしました。

今年度のラッキョウ収穫量は農業経営事業分が2010kg、農家分が585kgで、同商品に換算すると約1万2000パック分となりました。

●「援農ボランティア」とは

ＪＡ横浜は、組合員同士の助け合いを理念に、農業経営を維持する営農サポートや遊休農地対策等の活動を目的として、准組合員を対象に「援農ボランティア」制度を導入しています。

農業者が農業を営む上で、人手不足による労働力の確保が大きな課題の一つとなっています。こうした課題を解決し横浜農業を守るため、現在68人の准組合員がボランティアに登録。活動内容は、①人手不足の農家を支援するための農作業 ②自然災害等による農地の復旧作業 ③ＪＡが遊休農地対策で行う作業 ④その他ＪＡが必要と認めた作業—です。

◇横浜農業協同組合 組織概要 *2023年3月31日現在

創立	: 2003年4月
本店所在地	: 神奈川県横浜市旭区二俣川1-6-21
代表者	: 代表理事組合長 柳下 健一（やなぎした けんいち）
出資金	: 116億円
組合員数	: 71,820人（正組合員11,060人、准組合員60,760人）
職員数	: 1,337人
ホームページ	: https://ja-yokohama.or.jp



みんながWAPPY!
やるJAの横浜!

共有ビジョン

総合3カ年計画を遂行するための心構えや姿勢として、組合員・地域・役職員の「みんながHAPPYになれるJAを本気で作りたい!」という共通した思いを表現し掲げるものです。

本件に関するお問い合わせ先

ＪＡ横浜 組織部広報課 新保（しんぼ） TEL045-532-8410